

史跡名勝天然記念物の指定等

《特別史跡の新指定》 1 件

1 ^{げんぱく}原爆ドーム（^{きゅうひろしまけんさんぎょうしょうれいかん}旧広島県産業奨励館）【^{ひろしまし}広島県広島市】

原爆ドームは、第二次世界大戦の末期である昭和20年（1945）8月6日午前8時15分に、アメリカ軍が広島に投下した原子爆弾により被爆した建物である。平成7年に史跡に指定され、翌8年に世界文化遺産にも登録された。

大正4年（1915）に建築された、ドーム部分に鉄骨を用いた煉瓦造及び鉄筋コンクリート造3階建て、正面中央階段室が5階建て、一部に地下1階の建物で、昭和8年（1933）に、^{ひろしまけんさんぎょうしょうれいかん}広島県産業奨励館と改称された。爆心地から北西約160mの至近距離で被爆し、爆風と熱線で内部は全焼したが奇跡的に倒壊を免れた。建物の中にいた約30名は全員即死した。昭和25年頃までに原爆ドームと言われるようになった。

今回、広島市により昭和42年以来5度にわたる保存整備の総括報告書がまとめられ、国内における原爆遺跡の史跡指定に係る調査研究の進捗を受けたことにより、原爆ドームが、現在もなお被爆当時の姿をよく保っており、第二次世界大戦末期に人類史上初めて投下された原子爆弾の惨禍を示す、被爆遺構の中でも象徴的存在となっていることがより明確となった。よって特別史跡に指定し、さらに充実した保護を図ろうとするものである。

《史跡の新指定》 6 件

1 ^{だいしょうじょうあと}大聖寺城跡（^{かがし}石川県加賀市）

大聖寺城跡は、加賀・越前の国境近くに位置し、戦国期における^{かがのくに}加賀国支配をめぐる攻防が繰り広げられた城跡である。当初は加賀一向一揆勢力の拠点であったが、^{てんぶん}天文24年（1555）以降、越前朝倉氏が頻繁に加賀に侵攻し、大聖寺城を占拠した。^{てんしょう}天正3年（1575）以降は織田・豊臣両氏が支配し城代を置いたが、^{けいちょう}慶長5年（1600）には^{まえだとしなが}前田利長が制圧し、^{げんな}元和元年（1615）に廃城となった。

^{くるわ}曲輪の形状や配置、^{こぐち}虎口等が描かれた近世に作製された絵図と、^{なわばり}縄張調査・測量調査で確認した遺構が概ね一致することから、廃城時の姿を遺していることが分かる。本丸を中心として、二の丸・^{かねまる}鐘が丸の大規模な曲輪を高所に、その周辺の尾根筋に三の丸・^{べっきまる}戸次丸等の曲輪、本丸と二の丸・戸次丸に挟まれた谷に^{たいめんしょ}対面所と呼ばれる広大な平坦面を配置した城郭構造である。出土遺物は、16世紀後半～末の様相を示す^{きょうとけいはじき}京都系土師器、越前焼による^{かめ}甕・^{すりばち}擂鉢等がある。

北陸における戦国期の政治状況の変化を知る上で重要である。

2 香坂山遺跡【長野県佐久市】

香坂山遺跡は、長野、群馬県境に連なる八風山山腹に位置する後期旧石器時代初頭の遺跡である。平成9年に長野県による上信越自動車道建設に伴う発掘調査で発見され、令和2～3年に奈良文化財研究所により行われた発掘調査により、八風山で産出するガラス質黒色安山岩を用いた石器群が検出された。

石器は大型石刃や尖頭形剥片、刃部磨製石斧等からなり、石刃製作跡や礫群、炭化物集中が発見された。これらは約3.5万年前の八ヶ岳新期第4テフラよりも下位の層から出土したこと、また、石器集中地点内で採取された炭化物の放射性炭素年代測定の結果、較正年代で3.6～3.7万年前の数値が得られたことから、後期旧石器時代初頭の石器群と位置付けられた。また、検出された遺構から、香坂山遺跡が石器製作だけではなく、生活の場としても利用されたことも明らかとなった。

出土した石器の組成は、ユーラシア大陸の後期旧石器時代初頭石器群と共通するとの指摘もあり、現生人類が日本列島に出現した後期旧石器時代初頭の人類行動を考える上で重要であるとともに、大陸由来である石刃石器群の実態を考える上で重要である。

3 韮山城跡 附 付城跡【静岡県伊豆の国市】

韮山城跡は、15世紀末頃に小田原北条氏の祖である伊勢盛時（宗瑞）が伊豆国へ進出した後に本拠となり、後に北条氏の領国西側の拠点となった城郭跡である。標高128mの天ヶ岳にあり、眼下に狩野川と下田への陸路があり、駿河湾と相模湾をつなぐ東西陸路との結節点である交通の要衝に位置する。北条氏の本拠が小田原に移った後は、境目の城として、駿河の今川氏、甲斐の武田氏に相對する位置にある重要な拠点であった。

天ヶ岳山頂周辺と南西尾根と北東尾根に曲輪や堀切を設け、北西に伸びる尾根の先にある龍城山上の幅約100m、長さ約400mの範囲には、本丸、二ノ丸、権現曲輪、三ノ丸とよばれる曲輪が残存している。南東尾根筋には出城的な遺構があり、北東尾根筋には史跡韮山役所跡を含んだ範囲で城郭遺構群が確認できる。山塊の西側には2時期にわたる堀跡が確認されており、文献史料における「大構」との関連が指摘されている。

天ヶ岳周囲には、天正18年（1590）の豊臣秀吉による小田原攻めの際に、韮山城包囲のために豊臣方が築いた付城跡が残っており、参陣者を記した文献資料と合わせることで戦闘の様子が判明する。戦国時代の築城の様子や、その終焉期の戦闘状況を知る上で重要な遺跡である。

4 ^{さかもとじょうあと}坂本城跡【^{おおつし}滋賀県大津市】

坂本城跡は、^{おだのぶなが}織田信長が^{ひえいざん}比叡山を焼き討ちした後の^{えんりやくじ}延暦寺等への監視拠点として、^{あけちみつひで}明智光秀に命じて、^{げんき}元亀2年（1571）から築城を開始した城郭跡である。

坂本城の構造を詳細に示す史料は残されていないものの、当時の記録等から、坂本城は天守を有しており、驚くほどの規模であったこと、城郭が琵琶湖水と接しており、城内から船に直接乗り込むことが可能な構造であったこと、豪壮華麗で安土城に次ぎ天下に有名な城であったと認識されていたことが窺える。

これまでの調査により、推定本丸跡から16世紀後半のものと考えられる礎石建物跡や石組井戸などが確認されており、明智光秀の時代の御殿もしくは上級家臣団の屋敷の可能性が考えられている。また、推定三ノ丸跡からは、16世紀後半のものと考えられる両側に石垣を有する幅9mの堀と、堀の内側から礎石建物跡や石組井戸などの遺構が確認されている。

坂本城跡は、織田信長配下の有力武将である明智光秀の居城であり、琵琶湖を通じた京への流通拠点に築城された政治的、軍事的、経済的に重要な城跡である。

5 ^{たらぎさがらしいせき}多良木相良氏遺跡【^{くまぐんたらぎまち}熊本県球磨郡多良木町】

多良木相良氏遺跡は、鎌倉時代前期に^{くまぐん}球磨郡に下向した西遷御家人、^{ちんぜいさがら}鎮西相良氏の^{しょうれんじ}菩提寺である青蓮寺と、居館もしくは川湊関連施設と推定される^{れんげじひがしのまえいせき}蓮花寺東之前遺跡からなる遺跡である。現在も、多良木の地には鎮西相良氏の^{そうりょう}惣領、多良木相良氏が、惣領権の主張と一族結合を維持する目的で信仰した寺社や城館、中世多良木村の開発に関わると考えられる^{あゆのせいで}「鮎之瀬井手」が残る。

蓮花寺東之前遺跡は、12世紀後葉に成立し15世紀中葉に廃絶する、球磨川と土塁により区画された施設で、川湊と考えられる石積護岸が検出されている。規模は小さいものの、出土遺物には^{はくじしじこ}白磁四耳壺・^{すいちゆう}水注等の高級品が出土することなどから、多良木相良氏による球磨川水運を利用した物流の拠点施設の可能性がある。青蓮寺は、^{えいにん}永仁3年（1295）に鎮西相良氏の祖、^{よりかげ}頼景を祀ったことから始まり、現存する阿弥陀堂の背後には、頼景をはじめとする相良一族の五輪塔が残る。

多良木相良氏遺跡は、球磨郡に入部した西遷御家人の地域支配や開発の様子を示すとともに、現存する寺社や仏像、豊富な文字史料等と発掘調査の成果から、相良氏の惣領、多良木相良氏の動向を具体的に知ることができる重要な遺跡群である。

6 崇元寺跡【沖縄県那覇市】

崇元寺跡は、歴代琉球国王の位牌を祀っていた寺院跡で、15世紀から16世紀初めごろの建立と考えられる。首里と那覇港の中間に位置し、先代琉球国王を弔う「諭祭」（先王諭祭）を執り行った寺院である。明・清王朝から派遣された冊封使はこの儀式に参列し、その後、首里城で新たな国王を冊封した。新国王は冊封後に、祖霊へ報告するため崇元寺を参詣した。琉球国王の正統性を示す一連の儀式の場の一つである。

境内は約1,230坪あったとされ、東・北・西を石牆で囲み、南前面に3つのアーチを持つ石造門、その両側に小門を備える石牆を置いた。石牆内には、本堂と呼ばれる位牌が置かれた正廟、東庁（国王控所）、西庁（王妃等の控所）、前堂、仏像が置かれた庫裏、儀式時の調理場である神厨の6棟の主要建物があつた。入母屋造の屋根、床は四半敷の塼敷等、和漢混合様式の建物であつた。

重要文化財に指定されている「旧崇元寺第一門及び石牆」以外は、沖縄戦によって焼失するが、発掘調査により、建物の基礎部分や回廊の石敷き等の遺構が、戦前の測量調査と一致して地下に残っていることが判明した。琉球王国の冊封関係について具体的な状況を示す場であり、琉球王国の王廟のあり方や祭祀の様相を知る上で重要な遺跡である。

《特別史跡の追加指定》 3件

1 安土城跡【滋賀県近江八幡市】

天正4年（1576）織田信長が安土山に築いた城跡。天主跡、伝本丸跡・伝二の丸跡等からなる。城跡内には惣見寺が所在する。安土山南西側を流れる安土川支流の藤兵衛浜と呼ばれる、昭和中期まで舟入として活用されていた部分を追加指定する。

2 藤原宮跡【奈良県橿原市】

持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代都城跡。藤原京跡の中心部に位置し、約1km四方の区画内に内裏、大極殿及び役所群が建てられた。今回、条件の整った部分を追加指定する。

3 岩橋千塚古墳群【和歌山県和歌山市】

和歌山平野の東側、紀の川南岸の岩橋山塊において、古墳時代前期から終末期にわたり築造された978基からなる日本有数の大規模古墳群。大谷山、大日山地区の未指定地の一部及び、既指定地でない6世紀後葉から7世紀初頭の首長墓が立地し、当該期の主たる墓域が展開する寺内地区、井辺地区を追加指定する。

《史跡の追加指定及び名称変更》 7 件

1 だいりづかこふんぐん 内裏塚古墳群 ふつつし 【千葉県富津市】

だいりづかこふん
内裏塚古墳

うわのづかこふん
上野塚古墳

くじょうづかこふん
九条塚古墳

こづかこふん
古塚古墳

いなりやまこふん
稲荷山古墳

さんじょうづかこふん
三条塚古墳

わりみづかこふん
割見塚古墳

かめづかこふん
亀塚古墳

房総半島南部に位置する、6 世紀前葉の空白を挟み、5 世紀中頃から 7 世紀にかけて大型の首長墓および中小古墳が階層的に築造された古墳群。地域首長の動向やヤマト政権との政治的関係、東国の特質を知る上で重要。内裏塚古墳に上野塚古墳、九条塚古墳、古塚古墳、稲荷山古墳、三条塚古墳、割見塚古墳、亀塚古墳を追加し、内裏塚古墳群に名称を変更する。

2 い どじり いせきぐん 井戸尻遺跡群 すわぐんふじみまち 【長野県諏訪郡富士見町】

い どじり いせき
井戸尻遺跡

そり いせき
曾利遺跡

井戸尻遺跡、曾利遺跡いずれも縄文時代中期の拠点的な集落であり、群として評価することにより、中部高地の集落構造を知ることができるとともに、縄文時代中期の標式遺跡であることや藤森栄一による縄文農耕論の契機となるなど、学史的にも重要な遺跡群。井戸尻遺跡に曾利遺跡を追加し、井戸尻遺跡群に名称を変更する。

3 するがこくぶんじあと 駿河国分寺跡 しずおかし 【静岡県静岡市】

伽藍地内の中央に金堂、その北側に講堂、その背後に僧房が軸線を揃えて配置され、伽藍地南東隅に塔が配された奈良時代の寺跡。駿河国最大で、周辺の国分寺跡に並ぶ規模の寺院跡である。今回、伽藍南西隅の区画内に当たる範囲を追加指定し、片山廃寺跡から駿河国分寺跡に名称を変更する。

4 いずものくにやましろういせきぐん まつえし 出雲国山代郷遺跡群【島根県松江市】

しょうそうあと
正倉跡

きたしんぞういんあと
北新造院跡

みなしんぞういんあと
南新造院跡

みなしんぞういんかわらがまあと
南新造院瓦窯跡

『出雲国風土記』に登場する意宇郡山代郷の2つの新造院跡とその関連遺跡で、古代の地方寺院に関する文献史料の記録に対応する遺跡が確定できる稀少な事例であり、一体的に評価することで古代の出雲国における地方寺院の成立と展開を理解できる重要な遺跡群。今回、南新造院跡と南新造院に瓦を供給した南新造院瓦窯跡を追加し、名称を変更する。

5 さぬきへんろみち かんおんじし ぜんつうじし たかまつし 讃岐遍路道【香川県観音寺市・善通寺市・高松市・さぬき市】

だいこうじみち
大興寺道

まんだらじみち
曼荼羅寺道

まんだらじけいだい
曼荼羅寺境内

しゅっしやかじけいだい
出釋迦寺境内

こうやまじけいだい
甲山寺境内

ぜんつうじけいだい
善通寺境内

ねごろじみち
根香寺道

ねごろじけいだい
根香寺境内

しどじけいだい
志度寺境内

おおくぼじみち
大窪寺道

おおくぼじけいだい
大窪寺境内

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の讃岐国（香川県）部分。第67番札所に向かって山を下りる大興寺道、第72番札所曼荼羅寺境内、第73番札所出釋迦寺境内、第82番札所根香寺境内、四国遍路最後の第88番札所大窪寺境内を追加指定する。

6 いよへんろみち まつやまし 伊予遍路道【愛媛県松山市】

かんじざいじみち
観自在寺道

いなりじんじゃけいだい およびりゅうこうじけいだい
稻荷神社境内及び龍光寺境内

ぶつもくじみち
仏木寺道

めいせきじみち
明石寺道

めいせきじけいだい
明石寺境内

だいほうじみち
大寶寺道

だいほうじけいだい
大寶寺境内

いわやじみち
岩屋寺道

いわやじけいだい
岩屋寺境内

じょうるじみち
浄瑠璃寺道

じょうるじけいだい
浄瑠璃寺境内

やさかじけいだい
八坂寺境内

じょうどじけいだい
浄土寺境内

はんだじけいだい
繁多寺境内

えんみょうじけいだい
圓明寺境内

よこみねじみち
横峰寺道

よこみねじけいだい
横峰寺境内

さんかくじおくのいんみち
三角寺奥之院道

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の伊予国（愛媛県）部分。松山平野北西部に位置する第53番札所圓明寺境内を追加指定する。近世前期には現在地に所在し、17世紀建立の八脚門が位置を変えずに残る。

7 あま み おおしまようさいあと おおしまぼうびたいあと つけたり おおしまじゅうひんしこあと おおしまぐんせとうちちよう 奄美大島要塞跡及び大島防備隊跡 附 大島需品支庫跡【鹿児島県大島郡瀬戸内町】

大正12年（1923）開庁の陸軍要塞跡に、昭和16年（1941）配備の海軍大島根拠地隊から発展した大島防備隊の本部跡、昭和19年に防備隊に編入した第18震洋隊基地跡、明治28年（1895）に設置された海軍施設の大島需品支庫跡の水溜跡等を追加し、名称を変更する。

《史跡の追加指定》 17件

1 しもつけやくしじあと 下野薬師寺跡【しもつけし栃木県下野市】

7世紀末頃建立の古代寺院跡。金堂跡・講堂跡・塔跡等が見つっている。日本三戒壇の一つ。しょうとく称徳天皇に重用された道鏡が左遷されたことでも有名。指定地南東端に接する、外郭施設である掘立柱塀跡が検出された地点を追加指定する。

2 そうじゃこふんぐん 総社古墳群【まえばしし群馬県前橋市】

とおみやまこふん
遠見山古墳

ふたごやまこふん
二子山古墳

あたごやまこふん
愛宕山古墳

ほうとうざんこふん
宝塔山古墳

じゃけつざんこふん
蛇穴山古墳

群馬県の中南部に所在する5世紀後半から7世紀後半にかけて首長墓が連綿と築かれた古墳群。各古墳は畿内地域との深い関連をうかがわせる要素を有しており、古墳時代中期から終末期の地域首長の動向やヤマト政権との政治的関係を知る上で重要。今回、二子山古墳の条件の整った部分を追加指定する。

3 とりかけにしはいづか 取掛西貝塚【ふなばしし千葉県船橋市】

貝塚が多く密集する東京湾東岸域にあって、最古段階の貝塚を伴う縄文時代早期前葉の集落である。地域における貝塚形成の開始期の状況を知ることができるとともに、同時期の集落では関東最大級で、当時の生業や精神文化等の実態に迫ることのできる重要な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

4 さんやかいづか 山野貝塚【そでがうらし千葉県袖ヶ浦市】

東京湾東岸（房総半島西部）に位置する縄文時代後期から晩期の大型馬蹄形貝塚。この地域に集中する大型貝塚群の中で現存する事例としては最南端に位置し、現在でも馬蹄形貝塚の形状をそのまま見ることができる。出土した魚類遺体は、東京湾東岸の中央部に位置する地理的特徴をよく表している。今回、条件の整った部分を追加指定する。

5 おだわらしょうあと 小田原城跡【おだわらし神奈川県小田原市】

いせもりとき伊勢盛時（そうずい宗瑞）以来、小田原北条氏代々の手で関東支配の拠点として整備・拡張された城跡。近世には有力譜代大名が配された。本丸、二の丸、三の丸、そうがまえ総構などから構成される。総構の土塁と堀にあたる部分を追加指定する。

6 ^{さどきんぎんざんいせき}佐渡金銀山遺跡【^{さどし}新潟県佐渡市】

近世から近代に稼働した我が国を代表する^{どうゆう わりと}鉱山遺跡。道遊の割戸で知られる^{あいかわ}相川金銀山、相川に先んじて開発された^{つるし}鶴子銀山や^{にしみかわ}西三川砂金山、17世紀前半に栄えた^{にいぼ}新穂銀山、^{ぎんざん}北沢浮遊選^{きたざわふゆうせんこうじょう}鉱場や^{おおまこう}大間港等の近代関係の施設からなる。今回、新穂銀山の一角を追加指定する。

7 ^{いぬやまじょうあと}犬山城跡【^{いぬやまし}愛知県犬山市】

木曾川沿いの独立丘陵に築城された中近世の城跡。国宝天守を有する。本丸や^{もみ まる}櫓の丸、松の丸などからなる。江戸時代初期に^{つけがろうなるせまさなり}尾張藩付家老成瀬正成が城主となって以降、成瀬家が城主をつとめ、明治維新に至る。今回、三の丸の南端に位置する^{ますがたあと}大手門枡形跡の一部を追加指定する。

8 ^{おうみおおつのみやしにこおりいせき}近江大津宮錦織遺跡【^{おおつし}滋賀県大津市】

667年、^{てんじてんのう}天智天皇が^{うつ}飛鳥から遷し、琵琶湖西岸に営んだ古代の宮跡。672年の^{じんしん}壬申の乱で廃絶した。これまでの発掘調査によって、^{だいり}内裏、^{せいでん}正殿、^{かいろう}南門、回廊、塀等の宮跡中枢部分が見つかっている。今回、推定宮跡南東部の南辺回廊部にあたる地点を追加指定する。

9 ^{くにきゆうせき}恭仁宮跡（^{やましこくぶんじあと}山城国分寺跡）【^{きづがわし}京都府木津川市】

^{てんびょう}天平12年（740）に^{しょうむ}聖武天皇が遷都し、以後3年3ヵ月営まれた宮跡。平城遷都後に大極殿が山城国分寺に施入された。大極殿の基壇や国分寺の塔基壇が残り、発掘調査により朝堂院や2つの内裏相当の区画等が見つかった。古代宮都の変遷やあり方を伝えるきわめて重要な遺跡である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

10 ^{ごっさかいといせき}五斗長垣内遺跡【^{あわじし}兵庫県淡路市】

弥生時代後期初頭に石器製作を行う集落として出現し、後期末まで鉄器製作を行う集落へと変化する。鍛冶遺構を有する建物跡を中心に多種多様な鉄製品、鍛冶工具とみられる石器類が多数出土し、弥生時代後期における鍛冶作業の実態を知る上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

11 ^{あべでらあと}安倍寺跡【^{さくらいし}奈良県桜井市】

^{あべ}安倍氏が創建した氏寺で、7世紀後半の寺院の規模や当時の仏教文化を考える上で重要である。^{あべのくらはしまろ}安倍倉橋麻呂が造営に関わった我が国最初の勅願寺である^{くだらおおでら}百濟大寺（^{きびいけ}吉備池^{はいじあと}廃寺跡）と伽藍配置等が類似する特徴をもち寺院造営の背景にある有力氏族の動向を知る上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

12 ^{みやまこふん}宮山古墳【^{ごせし}奈良県御所市】

奈良盆地南西端の^{こせやまきゅうりょう}巨勢山丘陵北麓に、古墳時代中期に築造された墳長約245mの大型前方後円墳。後円部に2基の^{ふきいし}竪穴式石室の^{はにわ}埋葬施設、墳丘に^{しゅうごう}葺石と^{しゅうてい}埴輪が認められる。^{しゅうごう}周濠と^{しゅうてい}周堤を巡らし、周堤に組み込まれた位置に方墳のネコ塚古墳が存在する。今回、条件の整った部分を追加指定する。

13 ^{ゆあさとうじょうかんあと}湯浅党城館跡【^{ありだぐんありだがわちょう}和歌山県有田郡有田川町】

^{ゆあさじょうあと}湯浅城跡
^{ふじなみやかたあと}藤並館跡

平安時代末期から南北朝期の^{きいのくに}紀伊国において大きな勢力を誇った湯浅一族を中核とする武士団「湯浅党」に関する遺跡。湯浅党の本拠地に形成された湯浅城跡、藤並館跡からなる。豊富な関連史料をもつ中世武士団の一事例であり、中世前期の武士団の実態を知る上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

14 ^{あねかわじょうあと}姉川城跡【^{かんざきし}佐賀県神埼市】

南北朝内乱のなかで南朝側の拠点として築かれ、室町期には戦国大名^{りゅうぞうじ}龍造寺氏の有力被官であった姉川氏の居城となった城跡である。大小の島々の周囲に堀を縦横に廻らした「環濠集落」としての特徴を持つ。今回、池沼・島状の地形を残す部分やその周辺を追加指定する。

15 ^{じんのうちじょうあと}陣ノ内城跡【^{かみましきぐんこうさまち}熊本県上益城郡甲佐町】

^{ひごのくに}肥後国における中世城館の中でも突出した規模と、特異な構造をもった城館跡。水陸交通の要衝に立地し、長期間にわたって継続的に城館が維持されたと考えられる。^{あそ}阿蘇氏から豊臣大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を考える上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

16 ^{ひゅうがこくふあと}日向国府跡【^{さいとし}宮崎県西都市】

7世紀後葉のⅠ期、7世紀末～8世紀中葉に造営された南面する政庁のⅡ期、8世紀中～10世紀後葉に造営され、9世紀に最も整備されるⅢ期まで、各時期の内容と変遷が判明し、ⅡからⅢ期が国庁と考えられる。古代日向国^{ひゅうがのくに}の政治文化を考えるうえできわめて重要な遺跡である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

17 ^{きゅうしゅうせいがん}旧集成館 ^{つけたり}附 ^{てらやますみがまあと}寺山炭窯跡 ^{せきよし}関吉の^{そすいこう}疎水溝【^{いそ}鹿児島県鹿児島市】

旧集成館は、幕末の鹿児島藩主島津斉彬^{がらす}が、鹿児島湾に臨む磯^{いそ}の地に西洋技術を導入して造砲・製鉄・機械・硝子その他の工場群を建設し経営した遺跡である。斉彬死後も事業は継続された。今回、発掘調査で判明した、石庫^{いしぐら}の跡を含む集成館工場群の南端部を追加指定する。

《名勝の追加指定》 3件

1 ^{のいけ}納池【^{たけだし}大分県竹田市】

久住高原の火山麓扇状地の段丘部からの湧泉によって形成された景勝地で古くから知られ、太政官^{だいじょうかんふたつ}布達に基づき初期に設定された公園の九州地方における事例として貴重で日本公園史における学術上の価値が高い。今回、条件の整った指定地西側の隣接地を追加する。

2 ^{いえどうんちていえん}伊江殿内庭園【^{なはし}沖縄県那覇市】

琉球王国の有力家臣・伊江氏の居館に、琉球石灰岩の岩盤を巧みに掘りくぼめて水盤状の池や石造の橋をつくり、景石に漢字を陽刻するなど、独特な意匠を持つ庭園。今回、居館の導入部と敷地南西部を区画する石積の部分を追加指定する。

3 ^{おきなわし}アマミクヌムイ【^{くにがみぐんくにがみそん}沖縄県沖縄市・国頭郡国頭村】

琉球開闢神^{かいびやくのかみ}であるアマミクの伝説地。調査研究により特定された13か所のうち、既指定の8か所に、国頭郡国頭村の「^{へどのあすむい}辺戸ノ安須森」を追加するとともに、既指定である沖縄市の「^{ごえく}ごゑく（越来グスク）」の指定地域を追加する。

《天然記念物の新指定》 1 件

1 マチカネワニ化石【大阪府豊中市】

マチカネワニ化石は、日本で初めて発見されたワニ類の化石標本で、マレーガビアル（トミストマ類）の近縁種であるマチカネワニ *Toyotamaphimeia machikanensis* のホロタイプである。マチカネワニは、今から50～40万年前のある時期に日本列島に生息していた大型のワニ類の絶滅種で、本化石標本によると全長6.9m～7.7mと推定され、頭骨の長さが1mを優に超える。本化石標本は、昭和39年5月に大阪大学豊中キャンパスの粘土層（約45万年前：新生代第四紀更新世チバニアン期の大阪層群）から発見され、学名の種小名は産地（待兼山^{まちかねやま}）、現属名は古事記に出てくるワニの化身である豊玉姫^{とよたまひめ}に因んで命名されたものである。

専門家による補強・修復が施され、地質学、古生物学、病理学など多角的な視点からの調査が実施されることで、マチカネワニ化石の学術的な意義が解明された。登録記念物に登録された平成26年以降も国内外での研究が継続され、東アジアを代表する巨大爬虫類^{はちゅうるい}であってワニ類の進化系統を議論する上で重要な化石標本であることがより明確になってきた。日本の古脊椎動物学史上重要な化石であり、ワニ類の進化を解明する研究においても不可欠な標本である。

《天然記念物の追加指定及び名称変更》 1 件

1 徳之島明眼の森・義名山の森琉球石灰岩地森林植物群落【鹿児島県大島郡伊仙町】

徳之島の琉球石灰岩地に成立するアマミアラカシ群落を中心とする自然林。追加指定する義名山の森は、水源地として水神が祀られるなど神聖な場所として守られてきたものであり、出現種数が豊富で絶滅危惧種や希少種も多数生育している。指定名称を徳之島明眼の森・義名山の森琉球石灰岩地森林植物群落に変更する。